



## 環境講座 ～カラスと上手く共存するためには～



### カラスの生態と対策

令和3年11月20日(土)

「カラスと上手く共存するためには」の環境講座を開催しました。  
株式会社CrowLabの塚原直樹先生を講師に迎え、カラスの生態やごみ荒しの対策などのお話をさせていただきました。  
カラスは我々の想像以上に賢いこと、においに鈍感な反面、人間の目には見えない紫外線が見えるなど、不思議な世界に驚かされました。  
カラスと共存する社会づくりに向けて考えさせられた一日でした。

#### 講師コメント

#### 身近なカラスに注目してみてください

身近なカラスですが、その生態は誤解されていることが多いです。

例えば、カラスは嗅覚を司る脳の部位が小さく、においに鈍感であることが解剖学的にわかっています。しかし、動物はヒトよりもにおいに敏感だと思いがちで、カラスもにおいで生ゴミを探していると思う方も多と思います。嫌なにおいでカラスを追い払うという製品も売られており、先入観や固定観念をもったままですと、間違った対策をしてしまうことにもなりかねません。カラス対策で重要なのは、カラスの生態を正しく理解することです。そのためには、カラスに興味をもって観察してみると、愛情深く子育てをする親カラスの姿や、ヒトの子どもが追いかけてくるように、若いカラス同志がじゃれ合って飛んでいるような様子もみられ、カラスに対するイメージも変わるかもしれません。

ぜひ、今日からカラスに注目して、正しいカラスとの付き合い方を探してみてください。

株式会社CrowLab 代表取締役  
宇都宮大学特任教授 塚原 直樹  
<https://crowlab.co.jp/>

#### 参加者コメント

賢くて抜け目のないカラスだが、嗅覚が鈍く、栄養価の高いものが好きなマヨラーらしい。聴覚は人と同じ位だが、翼が敏感で警戒心が強いらしい。1番びっくりしたのは、カラスが多様な鳴き声を持ち、発達した音声コミュニケーション能力があるということです。

ゴミの出し方については、ネットのかけ方に十分な注意が必要らしい。生ごみを発見させないように工夫して出し、常に住民が目目を光らせてることが大切だということです。

今回の講座に参加し、色々な事を知ることが出来て感謝しています。

民生委員児童委員協議会長 福田 泰子







# 西地区 体育祭

西地区体育祭を行いました。今年新型コロナウイルスの影響で学校の運動会とは別に、また午前中までの規模に縮小し、さらにマスク着用・手指や道具の消毒など徹底した感染防止対策のもと開催しました。

当日は晴天に恵まれ、地域のお年寄りから小さなお子様まで多数ご参加いただき大いに盛り上がりました。



西地区ひまわり太鼓

今年で17年目を迎えました。心に響きわたる演奏に魅入られました。ひまわり太鼓はいつも元気いっぱいです。



小学生による徒競走

1年生から6年生まで希望者全員参加のかけっこです。みんなの白熱した走りに心躍りました。



おたまDEレース

昨年に引き続き大好評のピンポン玉レースです。好きなお玉を賞品で持って帰って頂きました。

令和3年10月9日(土)

— 西地区スポーツ協会 —



おぶって走ってじゃんけんぽん

いつの間にか大きく育った我が子をおんぶして、ひそかに涙したお父さんもいたのでは？



目指せ! W杯

サッカーボールを蹴りながら走るだけのシンプルナリレーです。しかしボールは言うことを聞いてくれず…。



ヨーイドン

今年も小さな天使たちがいっぱい走ってくれました。早く小学校で会いたいですね。



玉入れ

かごを持つお父さんめがけて玉を投げる方式で行いました。反射神経が勝負の分かれ目？



それいけ! アンパンマン

今年も人気No.1! 西地区恒例の伝統種目です。おいしいパンで幸せいっぱいになりました。



綱引き

大人達の意地とプライドを賭けた真剣勝負。翌日は腰が痛くなりませんでしたか? お疲れ様でした。

今回の体育祭は新型コロナ感染防止のため例年とは違うかたちで行いました。でも、だからこそ皆さんの記憶に残る体育祭となったことでしょうか。開催にあたりご協力頂いた地域の皆さんに大変感謝しております。ありがとうございました。

# 敬老を祝う音楽会

令和3年11月13日(土)

— 西地区社会福祉協議会 —

今年も、新型コロナウイルスの影響と衆議院選挙投票所に西小体育館使用のため、日程を変更して開催しました。新型コロナウイルス感染対策として、検温、手指消毒、換気、さらにマイク等の消毒を徹底して行いました。

松岡会長の司会で始まり、長島西地区連合自治会長、渡邊西小学校校長の挨拶の後、100歳を迎えた鈴木彌三郎さんが紹介され、来場者から大きな祝福の拍手を受けました。

西小6年の伊沢朋花さんが敬老者へお祝いの言葉を贈り、西地区行事に欠かせない「ひまわり太鼓」で音楽会が始まり、内記里緒さん、半田怜聖さん、川上結衣さん、高橋蒼衣さんのピアノ、中郷紫櫻さんのエレキギター、そして、篠笛奏者の狩野嘉宏氏(宇都宮市出身)の演奏が行われ、来場者は聞き入っていました。開催にご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

二条町南部自治会 本多 厚



# 第18回歳末チャリティ餅つき大会

令和3年12月4日(土)

第18回歳末チャリティ餅つき大会を開催いたしました。全市一斉土曜授業と同日開催ということもあり、多くの保護者の方々にもお手伝いしていただきました。

毎年、楽しみにして来てくださる地域の皆様、西小学校PTA保護者の皆様、今年もたくさんの方に

ご購入いただき、午前中には完売となりました。ありがとうございました。売上金の一部を歳末たすけあい募金に寄付させていただきました。

～今年度決算～

歳末たすけあい募金	14,301円
西地区まちづくり基金	45,000円



# 西地区若者Uターンゲート事業

西校卒業生がつながる

LINEグループ 始まります!!

2012年卒の吉田圭吾さんが、東京へ大学進学しながらも地元の西地区と関わりたいと同級生にも声をかけ、西地区の花火大会等手伝ってくれています。もっと卒業生がつながり、それぞれのお誘いや西地区で関わるきっかけなどが情報共有できるLINEグループを試験的に始動します。QRコードから「参加」いただき、LINEを使ってより広く深い地域のつながりにしていきたいです。





## シリーズ わたしたちのまち、再発見!! (第2回)

### オリオンACぷらざ

「オリオンACぷらざ」は、オリオン通り商店街振興組合が運営する「ギャラリー・カフェ」（空き店舗活用事業）として、平成24年にスタートした「休憩と憩いのスポット」です。

平成24年から3年間、国（経済産業省）の支援を受け、商店街活性化事業の一環として開業し、平成27年からは商店街（振）自主事業として継続運営しています。

文星芸術大学教授の作品展を皮切りに、市民の趣味のグループや個人での作品展や発表会、更には「新石町山車・火災太鼓プロジェクト」の復元活動の展示や「鳶の文化・宇都宮の伝統展」など、貴重な歴史的・文化的遺産に触れる場の創出など、様々な活用をしております。

また、同地域に立地することから、西地区まちづくり推進委員会のご協力を得て、西小学校児童の作品展を行うなど地域との連携事業も重視し実施してきました。

当ぷらざでは、昔懐かしい「お化け屋敷」を子ども達の夏休み企画として開設し、同時に「駄菓子」の販売や射的ゲームも併設し、街中で子ども達の遊び場空間を創出し、子供達の記憶に残るような取り組みも実施してきました。特に「お化け屋敷」は、栃木県伝統工芸士の作品（佐野の生人形）で10か所を超える仕掛けとなっており、子ども達ばかりでなく大人の方々にも楽しんでもらっています。

しかしながら、令和2年・3年と新型コロナの影響から「お化け屋敷」はやむなく開催を中止しており、1階ギャラリーにおいても自粛中止をされる出展者が重なり、休業状態が続いておりますので、今後はできる限り「商店街振興組合の自主事業」を実施していく予定です。西地区の皆様方にもご利用いただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

オリオンACぷらざマネージャー 小林 久夫



## Voice 「どーせ」

昔、USBを知らないIT担当大臣がいました。また、パソコンを打てないIT担当大臣もいました。世間的には「どーせ、誰がなっても同じ」と軽く思っていました。

しかし、コロナ禍で日本のデジタル化が近隣の国に比べ、10年以上遅れていることが露呈しました。

西地区では、自治会の皆様に「何か困りごとはありませんか」と言うアンケートを実施致しました。しかし、実際に困りごとはあっても「どーせできないだろう」ということで、返答はありませんでした。

確かに皆様の困りごとを一つ一つ取り上げて実施することは難しいことでしょう。しかし、「どーせ」と言っていたのでは、何も解決しません。自分の困りごとをヒトに話してみませんか。近くの民生委員さん福祉協力員さん等に相談してみませんか。

「どーせ」と思わないで誰かに話してみる。そこから何らかの解決の糸口が見えてくるかも知れません。

(文責 松岡 明直)

## いちご一会とちぎ国体応援 うつのみやイルミネーション2021

令和3年11月18日(木)～令和4年1月16日(日)の間、開催されました。

その中の「カマガワイルミネーション」に西地区ひまわり太鼓の子ども達が作成したイチゴの形のオーナメントが釜川沿いに飾られ、光輝きました。



## 編集後記

早いもので令和も4年目を迎えました。コロナ禍で私たちの生活も制限され、とても不自由な世の中になってしまったと感じます。そんな中でも地区行事のなかで子ども達の笑顔にふれるたび、自分も頑張ろうと勇気づけられています。今年もたくさんの行事を予定しますので皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

編集委員一同

